

大学教育研究フォーラム 授業連携による クラスルーブリック作成過程の事例

毛利 美穂* 西浦 真喜子* 小林 至道* 中澤 務** 森 朋子*
(関西大学 教育推進部* 関西大学 文学部**)

mohri@kansai-u.ac.jp

2015年3月14日（土） 於：京都大学

本発表の流れ

- 問題の所在と本発表の目的
- ルーブリックの作成手順
- ルーブリックの作成：体制・作成手順
- コモンルーブリックの作成・作成過程における問題点
- クラスルーブリックの作成・作成ガイドライン
- ルーブリックの評定体制
- 評定の過程で生じた記述語の問題点とその改善
- 本発表のまとめ
- 今後の課題

問題の所在と本発表の目的

問題の所在

- これまで、ループブック作成においては、単一の授業・クラスで、ひとりの教員が利用することを前提としたループブックの作成が主であった。
- 共通教養科目など、複数の授業・クラスで、複数の教員が共有するループブックの作成に関する事例の蓄積が少ない。

本発表の目的

- 共通教養科目で共有可能なループブックを複数名で作成し、複数名で評定に用いる過程で生じた問題点を明らかにすること。

ループリックの作成手順

1. 事前に予想される学習者の行動・学習の過程を可能な限り可視化（リストアップ）する。
2. 複数の教員（できれば3名ほど）の合議によって、リストアップしたパターンから、評価の観点、達成の度合いを示す尺度、それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を示した記述語を練り上げる。

（高浦2004）

3. 以上の作業を進めながら尺度の各項目を作成し、さらに新しいパターンが生まれた場合は、ループリックに追加する作業を継続していく。

（松下2007）

ループブリックの作成体制

種類	アカデミック・ライティング
作成者	4名：専任教員1名、特任教員3名
対象レポート	文系上位年次：10本 文系下位年次：10本 理系上位年次：10本

実験系は
想定せず

作成者の人数に関しては、評価の信頼性を確保するため、4名に定める。（松下2014）

今回実施した作成手順

コモンルーブリックの作成

作成者によるレポート評価（約2週間・30本）

結果の分析・ルーブリック改良

アカデミック・ライティングに
必要な観点の抽出を目指す

文理, 上位・下位年次

クラスルーブリックの作成

評定者によるレポート評価（約2週間・10本）

結果の分析・ルーブリック改良

実際の共通教養科目授業
での使用を目指す

文, 下位年次

モデルクラスでの検証

導入予定の科目で検証

コモンルーブリックの作成：概要

作成期間： 約1ヶ月半

4月17日、5月1・15・22日、6月7日

(1回につき2時間程度の合議を5回設ける)

- 対象：全学部・全学年
- 想定する課題：レポート
- ルーブリックの使用目的：直接評価、間接評価
- 観点：文・理、上位・下位年次のレポートをもとに作成
- 尺度：0～4の5段階で設定
- 評定者：作成者4名

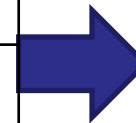
コモンルースブリックの作成：観点の検討

持ち寄った観点：5、8、11、22 → **ばらつきがある**

→ Kj法で4つの項目（主題、構成、根拠、表記）にしぼる。

→ 4項目から各2つ、計8項目の案から7観点を決定する。

		A	B	C	D
主題	主題	主題の明確さ	主題		問いの設定
	主張	主張の明確さ	論点・仮説、結論・結果	主張は何か	主張とその根拠
構成	型(構造・要素)	議論の構造	論証	型を守っている	論文としての文の構成
	展開(つながり・流れ)	議論の流れ		段落のつながり	
根拠	根拠の提示	論拠の提示	根拠資料	情報検索	主張とその根拠
	先行研究の検討	調査の十分さ		一般的な事実、筆者の意見の区別	先行研究の検討
表記	ことばの使い方		学術ターム	用語の定義	文章表現
	表記	文体の統一、語彙・言葉づかい		表記	



項目	評価の観点	
主題	1	主題の明確さ
	2	主張・根拠の明確さ
構成	3	型（構造・要素）
	4	展開（つながり・流れ）
根拠	5	文献の検討
表記	6	引用のルール
	7	表記

コモンルースブリックの作成：記述語の検討

例：「主題の明確さ」における記述語(1・2を抜粋)の検討

作成者	1	2
A	考察すべき主題や問題が説明されている箇所はあるものの、 明確 にはわからない	考察すべき主題や問題が説明されており、内容もわかるが、十分なものにするには さらに改善 が必要である
B	与えられたテーマのまま、取り上げる概念や内容が おおまか に示されている	問題意識はうかがえるが、取り上げる問題が、 十分に 絞り込まれていない
C	取り上げる問題に対して、(提示されたままの) 概念やや内容が、 おおまか に示されている	取り上げる問題に対して、問題意識はうかがえるが、問いが複数挙げられ、一つに絞り込まれていない
D	文章における問いが 一応 書かれている	文章における問いが書かれている



評価の観点	1	2
主題の明確さ	取り上げる主題に対して、説明されている箇所はあるものの、 概念や内容が不明瞭 である。	取り上げる主題に対して、問題意識はうかがえるが、問いが 複数 挙げられ、 一つに絞り込まれていない 。

コモンルーブリック作成過程における問題点

問題点

- 汎用性を求めすぎたため、記述語の抽象度が高くなった。
- 尺度の差を明示するための記述語の設定が難しくなった。

改善に向けての方針

- 記述語の明確化を目指す。
- 尺度の記述語のパターンを設定する。



クラスルーブリックの作成へ

クラスループブリックの作成：概要

作成期間： 約1ヶ月

10月15・22日、11月5日

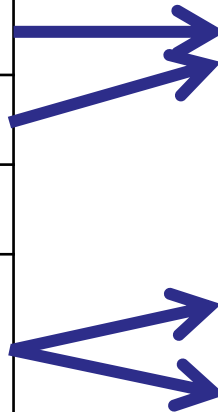
(1回につき2時間程度の合議を3回設ける)

- 対象：共通教養科目（主に文系）
- 想定する課題：2000字程度の論証型レポート
- ループブリックの使用目的：直接評価、間接評価
- 観点：導入予定の授業の提出レポートをもとに作成
- 尺度：1～4の4段階で設定
- 評定者：作成者以外の教員4名

クラスループブリックの作成：観点の検討

検討前

A	教員の課題意図の理解
B	資料の要約
C	批判的資料の取り扱い
D	自分の立場・意見
E	用語の定義・引用のルール・表記



検討後

A	教員の課題意図の理解
B	資料の取り扱い
C	自分の立場・意見
D	論理構成
E	学術的な作法
F	日本語の表現

- B・CおよびC・Dの区別が妥当かどうか。それぞれに重なる要素が多いため、「資料の取り扱い」でまとめる。
- Eの雑多感を解消するため、「学術的な作法」「日本語の表現」に分ける。
- 新たに、構成に関する「論理構成」を設ける。

クラスループブリックの作成：記述語の検討

例：「C 自分の立場・意見」(1・2を抜粋)の検討

作成者	1	2
A	自分の意見が述べられていない	自分の意見を述べているが、3名の意見を踏まえていない
B	資料をもとに、自分の立場・意見を整理し、 論理的 に提示することができていない	資料をもとに、自分の立場・意見を整理しているが、 論理的 に提示することができていない
C	課題に対する自分の立場・意見の明示がまったくできていない	課題に対する自分の立場・意見が 曖昧 なまま、議論が進んでいる
D	自分の立場や意見が提示されていない	自分の立場や意見は明確に提示できているが、論拠が提示できていない



	1	2
自分の立場・意見	自分の立場・意見が提示されていない。	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない。

クラスルーブリック作成ガイドライン

尺度	尺度の定義	記述語の統一
1	課題目標が未達成な段階	～（が）ない／～できていない
2	課題目標を部分的に達成している段階	～はあるが、～はない／～しているが、～できていない
3	課題目標を達成している段階	～がある／できている
4	課題目標を達成しているとともに、+a（優れた点）がある	～があり、～もある（できている）

ループブリックの評定体制

種類	アカデミック・ライティング 2000字程度の論証型レポート
評定者	4名：専任教員2名、特任教員1名、 非常勤講師1名
対象レポート	文系下位年次：10本

- ・ 評定者は、作成者とは別の教員を選出した。
- ・ 評定者の人数に関しては、評価の信頼性を確保するため、4名に定める。（松下2014）

評定の過程で生じた記述語の問題点とその改善

例: 「D 論理構成」における記述語(3・4を抜粋)の検討

	評価の観点	3	4
論理構成	論理構成（序論・本論・結論、PREP等）ができているかどうか	論理構成ができている	論理構成ができおり、内容的に一貫している
評定者の意見	- 論理構成ができているれば、内容は一貫するのでは？ - 記述（ミクロ）についてか、全体の構成（マクロ）についてか？ - タイトル（各節のものも含む）の適切さ（内容とかに合っているかどうか）は項目に入れなくてよいのですか？		



改善点

	評価の観点	3	4
全体の構成	文章全体の構成について、序論・本論・結論、PREP等の形式になっているかどうか。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできおり、かつ内容的にも一貫している。

本発表のまとめ

- 📌 ルーブリックを作成する過程での問題点
 - 作成者間において、観点・尺度についての共通理解に不足があった。
 - 観点・尺度の定義・区別が不明瞭であった。
 - 尺度・記述語の差異化に統一感がなかった。
- 📌 ルーブリックを評価に用いた過程での問題点
 - 評価を行うレポートの種類によって、ルーブリックの観点との乖離も見られた。
 - 「評価の観点の説明」と記述語に説明不足の点があった。

今後の課題

-  今回、作成したループリックの信頼性と効果の検証については、次年度実施予定の共通教養科目において行う予定である。
-  その検証結果をもとに、ループリックのブラッシュアップをはかる必要がある。

参考資料（アルファベット順）

- 中教審大学教育部会説明資料（2011）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1314260.htm
- 中央教育審議会（2012）「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」
- 中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」
- 松下佳代（2007）パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する，日本標準
- 松下佳代（2014）「学修成果としての能力とその評価—ループブックを用いた評価の可能性と課題—」『名古屋大学高等教育研究』，第14号，pp.235-255.
- 高浦勝義（2004）『絶対評価とループブックの理論と実践』，黎明書房